



北山の会だより No. 28

2016年4月

目次

1. 立命館大ワングルOB会のホームページを読んで 会長	西邨顕達	2 頁
2. 「田中二郎君と楽しく呑む会」を楽しむ	太田 亙	4 頁
3. 鳥谷山 (1077m、北小松)	西邨顕達	7 頁
4. 北山荘で餃子を食べる会	黒田俊郎	11 頁
5. 白倉山 (949.9m、北小松)	西邨顕達	14 頁
6. イタリア チェルヴェニア 10日間 スキー紀行	中村 淳	16 頁
7. 飯森山 (791m、西北)・天童山 (775m、西北)	西邨顕達	22 頁
8. 北山荘 あわや火事寸前!	高鋤 博	27 頁
9. 高島法男くんの思い出	西邨顕達	29 頁
10. 高島君との白根山行を思い出して	大澤忠嗣	33 頁
11. 若かったね、楽しかったね・・・高島君!	竹内右京	35 頁
12. 高島君のこと	森脇政光	36 頁
13. 高島法男さんを悼む	田中二郎	37 頁
14. 高島法男さんを悼む	上寫秀夫	37 頁
15. 黒瀬の思い出	安藤久男	39 頁
16. 故黒瀬寿男君を偲ぶ	中村 淳	41 頁
17. 黒瀬寿男さんを偲ぶ	仲田道彦	42 頁
16. アンケートの結果	高鋤 博	46 頁
14. デジタル会員のお勧めと会費減額について	高鋤 博	47 頁
15. 北山の会総会報告	高鋤 博	47 頁
17. 事務局からの連絡事項	事務局 高鋤 博	49 頁
会員の動向、デジタル会員の会費減額および会則の変更		49 頁
会計報告		50 頁
誤植訂正、北山荘観桜会、編集後記		52 頁

付録：2016年4月1日会員名簿

北山荘観桜会 4月29日(祝日)

餅搗きもあります。奮ってご参加ください。

参加される方は事務局高鋤または磯垣さんにご一報ください。

立命館大ワングエルOB会のホームページを読んで

西邨顕達

北山の会・前会長の鎌田さんが立命館大ワングエルのOBであることは以前から知っていた。また、この人々との付き合いがいかにも楽しいかもよく聞かされてきた。ところで最近、ひょんなことから立命館大ワングエルOB会（正式には立命館大学ワンダーフォーゲル会OB会、その英訳を略してRUWV-OB）のホームページ<<http://ruwv-ob.cool.coocan.jp>>の存在を知った。それを読んで鎌田さんの話していたことがこれまで以上によくわかった。ホームページに載っている記事は膨大なもので、私はその一部しか読んでいない。少し紹介する。

ところでこの“ひょんなこと”とは次のようなことである。最近飯森山、天童山、茶呑峠などに行きたいと思いネット検索した。すると立命館大ワングエルOB会がこの山域へ最近行ったことがわかった。行ったメンバーの中には鎌田さんも含まれていた。こういうことでこの山行記の載っているホームページに入ってしまった。

ホームページを読んで鎌田（以下敬称略）はこのクラブの創立に深くかかわっていることが初めて分かった。復刻された部誌「漂雲」の創刊号（1958年7月10日発刊）の中の「立命W・V創立小史」で、1956年4月27日をもって当会の創立日とする、と彼は書いている。当日の朝から入部勧誘のビラ4000枚を配り始め、3日目には申込者が100名に達したとのこと。ビラは大野照夫および福島俊平と一緒に配った。

福島は鴨沂高校・山岳部で鎌田の2年後輩である。そのころ鴨沂と洛北、両校の山岳部は同じ一つの高校のクラブのように活動してきたので、私も1年先輩の彼を知っている。数年前までは彼も北山の会・会員であった。大野も鴨沂高校出身だが生物部に属していた。鴨沂の生物部は昔も今も、山好きの部員が多かったから、彼も山好きで鎌田と知ったのかも知れない。

ある年（たぶん2014年）の5月中ごろクラブ創設期のころのメンバー9人が自分たちの山小屋で一夜を過ごした。そのときの様子を二人の参加者、鎌田と森村征男が記事にしている。お二人ともその集まりが余りに愉快だったので、その余韻が消えないうちに記事にしておこうという感じで書いておられる。鎌田は愉快さの背景を列挙しており、それを私なりに解釈して以下に述べる。

1) この会は「自由」であるということ。正確に言えば既成概念からの自由ということ。これはRUWVができたころ、他の大学にはワングエルは存在せず、それゆえワングエルとは何かという概念も存在しなかったからだと鎌田は言う。しかしこれには承服しがたい。立命にワングエルができたころ、または、それ以前

に他の多くの大学でワングルがつくられているからである。例えば、立教：1935、慶応：1935、早稲田：1949、京大：1953、明治学院：1954、関西学院：1955、福井大：1956、同志社：1957。

では鎌田のいう自由は何であるかといえばそれは、自分たちが作ったクラブゆえ先輩や伝統が存在しない、ということからくる自由であろう。光栄ある(?)京一中山岳部の末裔に位置づけられ、それゆえ、先輩や伝統がいっぱいあった(あり過ぎた)鴨沂高校山岳部で育った鎌田はそれらが何もない新天地に移って気も晴々したのではないかと想像される。

2) 素晴らしい「人材」。自由という状態は何でもできることを意味するが、他方では頼るものが何にもないことでもある。したがって、模索と試行錯誤がどうしても付きまとう。とくにクラブを立ち上げたときがそうである。そのときに「個性の強い、アクのある強者が」「まるで水を得た魚のように集まって来た」、「その連中は 個性は万別ながら、目指すところは一致していた」。彼らによって「実にユニークな計画が次々発表され、実行されていった」というわけである。



二の谷の山小屋。メンテナンスがよくされている

3) 山小屋の建設。小屋の場所選定、地ならし、資金、設計、資材手配、運搬、施工、等大変な努力の結果、1962年、雲取山の南麓二の谷に念願であった山小屋ができた。

4) 現在に至るまで半世紀以上続く山小屋の補修とリフォーム。その結果前項とともにメンバーの交流の場が確保・維持され、作業を通じて参加者の団結が強くなった。

5) 現役学生のいるワングル会には常時 200名の部員がいて、そこ

からOB会メンバーは補充される。

6) ホームページの存在と管理。投稿数が多く、投稿者には創部時のメンバーが多い。その記事から、彼ら相互の親睦と団結の強さ、彼らの山小屋やクラブに対する愛情の深さがよくわかる。北山の会・会員の皆さま、ぜひ読んでください。

ホームページを読んで北山の会・会員が和気藹々やっていく上での参考になったことがある。一番大事なのは第2項の「人材」だがこれは今さらどうしようもない。それでもやれることがある。第1に、私たちの山小屋「北山荘」になるべくよく行くこと。第2に自分のペースでできるだけよく山に行くこと。